

『妙法蓮華經』

如来神力品

第二十一

に曰く、

「日月の光明の、能く諸の幽冥を除くが如く、

斯の人世間に行じて、能く衆生の闇を滅す」。

一切の諸の闇は、日月の光明に会うて消えざるはない。

地上の社会生活にも、闇がある。

人の心の中にも、また闇がある。

これらの闇は、日月の光明をもつてしても、なお、よく消除することはできない。

社会生活の闇、人の心の闇を除くことのできる者は、ただ慈悲勝れたる人の、艱難を忍び、苦痛を甘んずる、尊き犠牲の血と涙とによってのみ、除くことができる。

この犠牲壇に立つ人は、かつて釈迦牟尼世尊を生み、龍樹、天親を生みし、印度の国と、印度の民族であり、如来の遺教を摂受し、正法をして、悪世末法に伝持し、よく五濁の衆生のために、大光明をかかぐる日本国と、日本民族とである。

印度の高き使命も、地上に戦争を否定して、衆生の生命を守ることであり、日本の高き使命も、また地上に戦争を否定して、衆生の生命を守ることである。

非暴力、無抵抗、不殺生は、止悪の戒律であり、

但行礼拝は、作善の戒律である。

我が身を殺しても、他人を殺すな。

寺院の中の礼拝よりも、十字街頭の礼拝に出でよ。

仏像の礼拝よりも、人間の礼拝をなさねばならぬ。

悪人を殺しても、その殺すことによって、彼の悪心を止めることはできない。

悪人を礼拝することによって、彼の悪心を転ぜしむることができる。

これが末法悪世を救う、但一行の宗教である。

南無妙法蓮華經

(藤井日達山主御書『第三次世界大戦』より)

14頁 \*拮抗力・勢力がほぼ等しく、互いに張り合うこと。

15頁 \*猜疑 他人の行いや性質をすなおに理解せず、ねたんだり疑ったりすること。 \*黄禍論 黄色人種の進出によって、白色人種に災禍が加えられるであろうという人種主義的感情論。

\*露国 ロシアのこと。 \*這般 このたび。 \*開闢 天地のはじめ。

16頁 \*謬見 まちがった見解・意見。

17頁 \*禽獣 ちくしゅう。

18頁 \*愚痴 ものの道理の見分けがつかないおろかさのこと。

『妙法蓮華經 如來神力品 第二十一』に曰く、  
「日月の光明の、能く諸の幽冥を除くが如く、

斯の人世間に行じて、能く衆生の闇を滅す」。

一切の諸の闇は、日月の光明に会うて消えざるはない。

地上の社会生活にも、闇がある。

人の心の中にも、また闇がある。

これらの闇は、日月の光明をもつてしても、なお、よく消除することはできない。

社会生活の闇、人の心の闇を除くことのできる者は、ただ慈悲勝れたる人の、艱難を忍び、苦痛を甘んずる、尊き犠牲の血と涙とによってのみ、除くことができる。

この犠牲壇に立つ人は、かつて釈迦牟尼世尊を生み、龍樹、天親を生みし、印度の国と、印度の民族であり、如來の遺教を摂受し、正法をして、惡世末法に伝持し、よく五濁の衆生のために、大光明をかかぐる日本国と、日本民族とである。

印度の高き使命も、地上に戦争を否定して、衆生の生命を守ることであり、日本の高き使命も、また地上に戦争を否定して、衆生の生命を守ることである。

非暴力、無抵抗、不殺生は、止惡の戒律であり、

但行礼拝は、作善の戒律である。

我が身を殺しても、他人を殺すな。

寺院の中の礼拝よりも、十字街頭の礼拝に出でよ。

仏像の礼拝よりも、人間の礼拝をなさねばならぬ。

惡人を殺しても、その殺すことによって、彼の惡心を止めることはできない。

惡人を礼拝することによって、彼の惡心を転ぜしむることができる。

これが末法惡世を救う、但一行の宗教である。

## 南無妙法蓮華經

(藤井日達山主御書『第三次世界大戰』より)

14頁 \*拮抗力・勢力がほぼ等しく、互いに張り合うこと。

15頁 \*猜疑 他人の行いや性質をすなおに理解せず、ねたんだり疑ったりすること。 \*黃禍論 黄色人種の進出によって、白色人種に災禍が加えられるであろうという人種主義的感情論。

\*露国 ロシアのこと。 \*這般 このたび。 \*開闢 天地のはじめ。

16頁 \*謬見 まちがった見解・意見。

17頁 \*禽獸 ちくしう。

18頁 \*愚痴 ものの道理の見分けがつかないおろかさのこと。